

## POI 患者が不安と向き合い治療を継続していくための看護支援

太田恭子 茅切純子 桑原愛 浅井麻利子 中岡義晴

IVF なんばクリニック

### I. 諸言

POI（早発卵巣不全）と診断された患者は排卵誘発が困難であるため、不妊治療にかかる期間は長期化する傾向にある。限られた卵子を根気よく育てていくため、先の見えない治療を継続しなければならないことにより POI 患者の抱える不安は大きい。

今回、POI 患者が抱える不安を表出し、治療と向きあってもらうために患者会を開催した。そこから得た看護支援について報告する。

### II. 実践内容

2019年に当院通院中の20代から30代でPOIと診断された患者13名が参加した。前半は看護師から「POI」の病態説明と、生殖心理カウンセラーから「治療中のセルフコントロール」について、後半は「患者同士の交流」を設定し、1テーブルは個々が発言できるよう少人数制とした。

### III. 結果

当初交流会には抵抗があると難色を示していた参加者も、治療の想いや気持ちを表出している他の参加者を見て自ら話し始める人もいれば、終了時間を過ぎても話し続けるグループもあった。会終了後のアンケートでは、「気持ちの共感ができた」、「自分について話せたことが気持ちの整理に繋がった」など前向きな回答があった。また、「今まではPOIについてよくわからないまま治療を続けていた」、「治療中のセルフコントロールの大切さを学ぶことができた」、「これからもこのような会を続けて欲しい」などの肯定的な回答もあった。

### IV. 考察

同じ悩みを持つ患者同士で意見交換ができたことは、患者のストレスや不安を軽減し、治療を前向きにとらえるきっかけになった。「POI」は自分だけではない、先の見えない治療と向き合わなければいけない現実を共有できたことが、POI患者にとって心強いものとなった。それと同時に、POI患者に理解しておいて欲しい患者教育の必要性和、今後も今回同様に患者同士の交流の場を持つ必要性がわかった。

### V. 今後の課題

患者教育といっても病態の理解だけでなく、長期化するかもしれない治療により不安を抱え易いことを知ってもらう必要がある。そして「必ずしも妊娠できるとは限らない」ことも治療と向き合うためには大切であり、POI患者の限られた治療期間の中で、納得した治療の選択ができ、その先の人生に繋がるといった継続した関わりを持たなければならないと考える。

コロナ禍により会開催が困難となった今、患者同士の関わりが途絶えてしまうことでPOI患者にどのような影響を与えるのか考慮し、「Zoom」による患者会開催を実施し、引き続き患者のために何ができるか検討していく。